

第2章



小学生児童・家庭の アンケート調査結果



1. 回答者のプロフィール

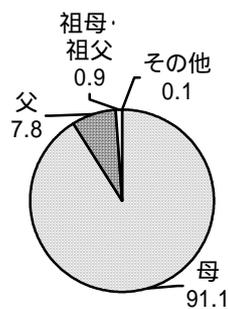
まとめ

回答者の9割は母親。30歳代の回答者が6割弱に及ぶ。
 各学年から回答を得た。ごくわずかだが低い学年ほど回答者が多い。
 小学生児童の9割には、兄弟姉妹がいる。
 核家族は6割強、三世代・四世代家族で暮らすのは3割。

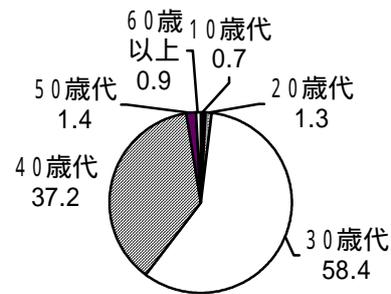
回答者の続柄と年齢

問1 回答していただく方、お子さんとの続柄は何ですか？

問2 回答していただく方の年齢は、おいくつですか？



(問1 = 回答者数 846人)



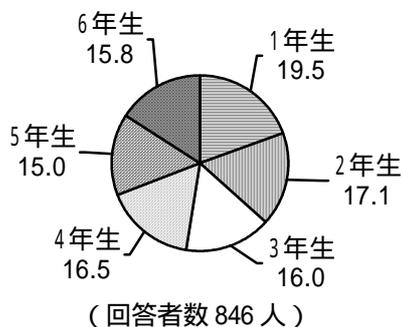
(問2 = 回答者数 846人)

回答者の9割は母親。30歳代の回答者が6割弱に及ぶ。

回答者を子どもとの続柄で見ると、9割以上が母親であり、父親が回答したのは1割未満である。ごく少数事例であるが、祖母・祖父による回答もみられる。また、回答者を年齢別にみると、約6割が30歳代であり、40歳代が約4割である。

子どもの学年

問3 あて名のお子さんは何年生ですか？



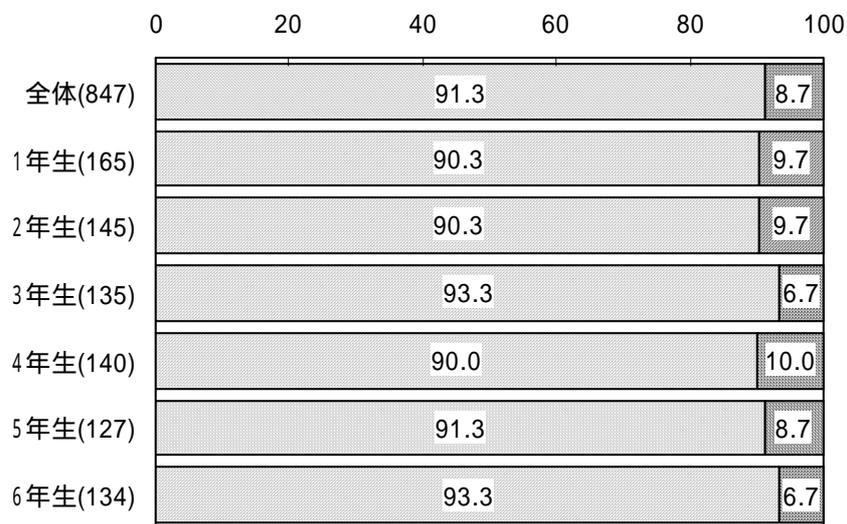
各学年から回答を得た。ごくわずかだが低い学年ほど回答者が多い。

児童の学年別にみると、各学年から1割台ずつが回答している。対象者の抽出にあたっては各学年から同人数(同比率)ずつ無作為抽出していたことを考え合わせると、ごくわずかであるが、低い学年をもつ保護者ほど回答が多かった。

子どものきょうだい

〔学年別〕

問4 あて名のおさんは、何人きょうだいですか？



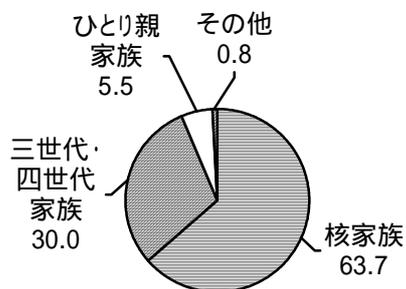
□きょうだい有り ■きょうだいはいない
(かっこ内は回答者数)

小学生児童の9割には、兄弟姉妹がいる。

小学生児童の9割以上には、きょうだい(兄弟姉妹)がいる。いずれの学年においても同様である。

家族構成

問5 ご家族は、次のどれに当たりますか？



(回答者数 840 人)

核家族は6割強、三世代・四世代家族で暮らすのは3割。

小学生児童の約6割は、核家族で暮らしている。また、三世代・四世代家族で暮らすのは、約3割である。少数事例ではあるが、ひとり親家族は1割未満である。

就学前児童の家庭に比べ、核家族世帯の割合が1割低くなっているのに対し、三世代・四世代家族は1割高くなっている。

2. 放課後と土曜日の状況

まとめ

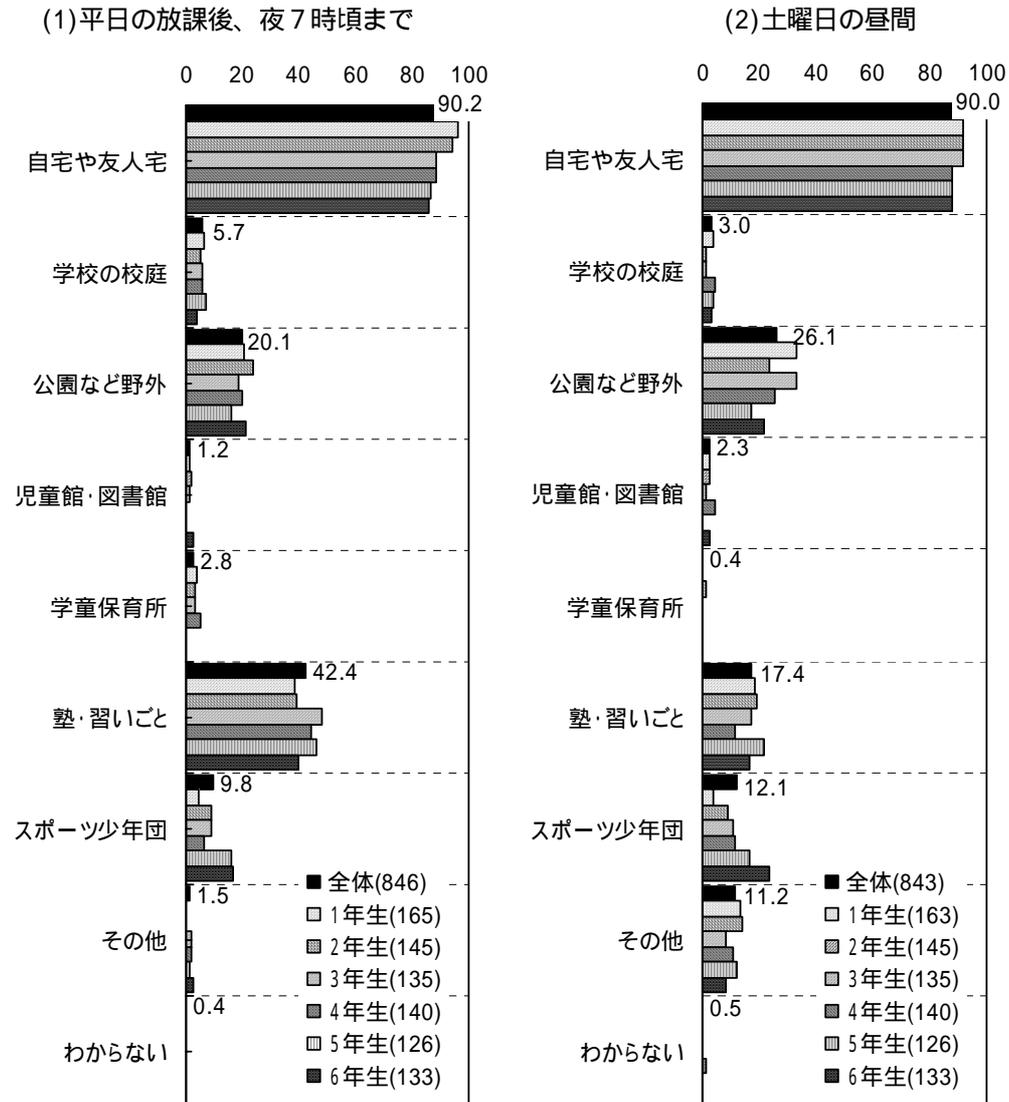
平日夕方・土曜日昼間は、約9割の児童が自宅・友人の家で過ごす。平日は4割が塾・習いごとへ。

平日夕方・土曜日昼間は、8割台が「家族がみている」、3割台は「きょうだいといっしょ」、1割台は「子どもだけで」過ごしている。

学童保育所の利用希望者は、現在利用者の数倍に及ぶ。

平日放課後・土曜日昼間に過ごす場所 [学年別]

問9 平日の放課後や土曜日は、おさんはどこで過ごすことが多いですか？



(カッコ内は回答者数、複数回答、全体のみ数値を記載、数値を省略した項目は資料編を参照)

平日夕方・土曜日昼間は、約9割の児童が自宅・友人の家で過ごす。
平日は4割が塾・習いごとへ。

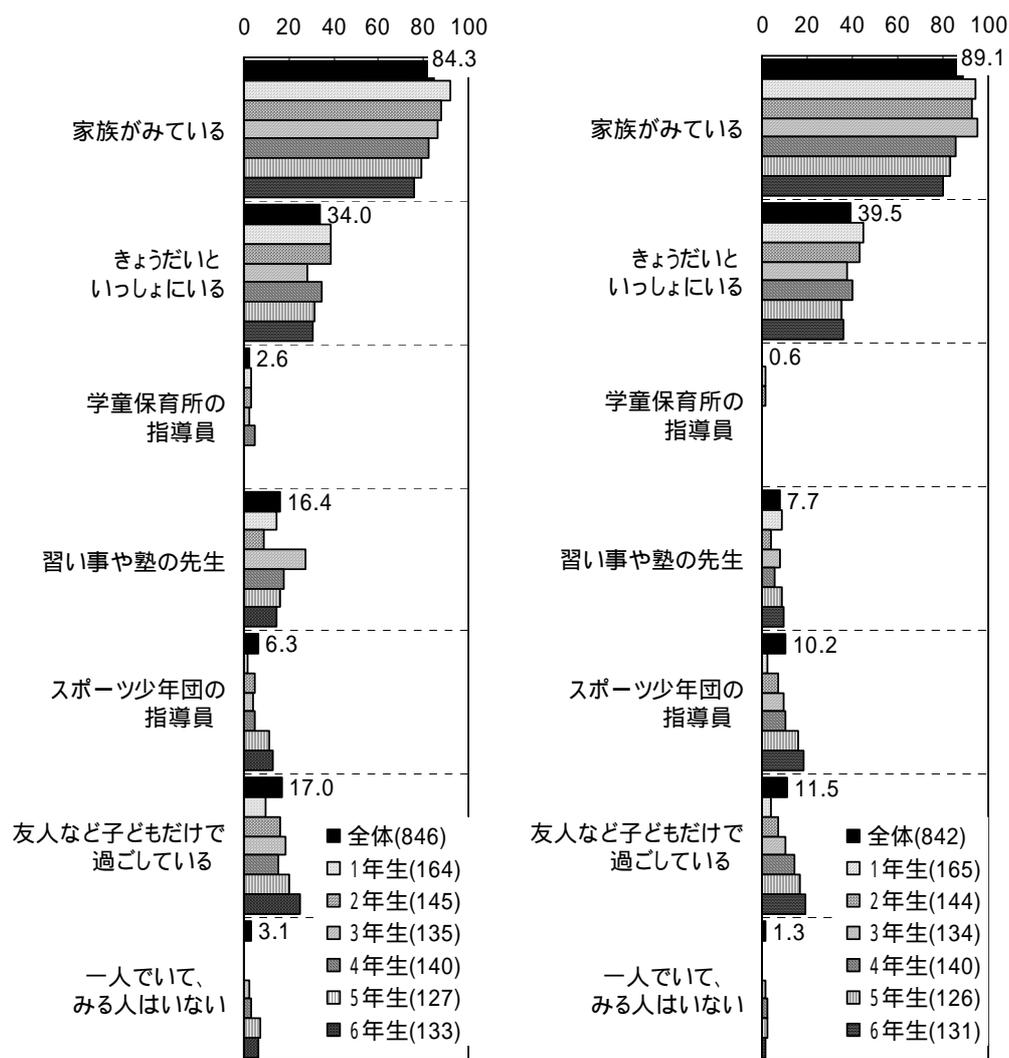
平日夕方・土曜日昼間に過ごす場所は、小学生児童の約9割は「自宅や友人宅」であるとしている。次いで多いのは「塾・習いごと」「公園など野外」である。また、地域の「スポーツ少年団」に参加しているのは約1割を占めているのに対し、「学校の校庭」や「児童館・図書館」「学童保育所」などを活用しているのは、小学生児童の1割に満たない。

平日放課後・土曜日昼間に一緒にいる人 〔学年別〕

問10 平日の放課後や土曜日は、主にどなたがお子さんをみていますか？

(1) 平日の放課後、夜7時頃まで

(2) 土曜日の昼間



(カッコ内は回答者数、複数回答、全体のみ数値を記載、数値を省略した項目は資料編を参照)

平日夕方・土曜日昼間は、8割台が「家族がみている」、3割台は「きょうだいといっしょ」、1割台は「子どもだけで」過ごしている。

平日夕方・土曜日昼間に小学生児童をみている人の約8割は「家族」である。次いで多いのは「きょうだいといっしょにいる」であり、3割台に及ぶ。

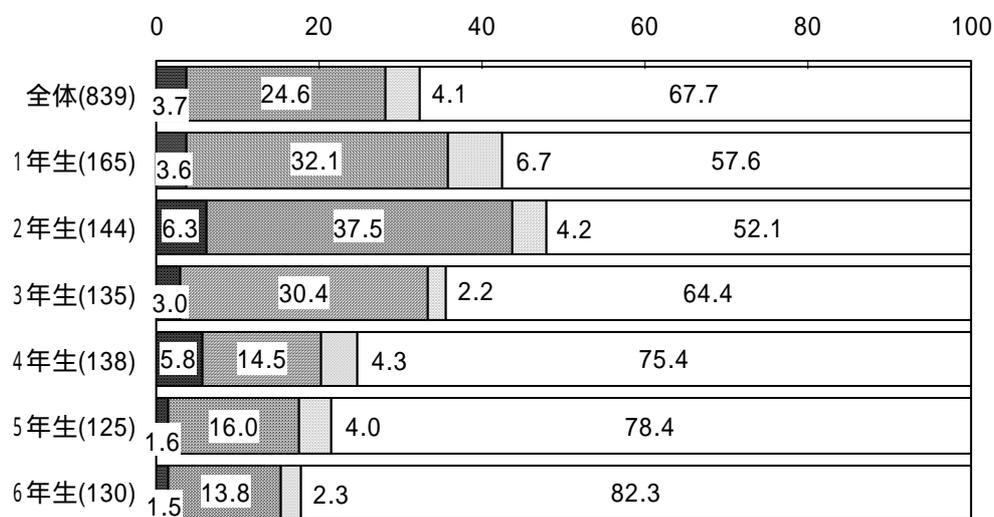
一方、「友人など子どもだけで過ごしている」のは小学生児童の1割を超えており、わずかではあるが「一人でいて、みる人はいない」児童も見受けられる。

学童保育所の利用状況・利用希望

〔学年別〕

問 11 あて名のお子さんは、学童保育所（放課後児童クラブ）を利用していますか？

問 12 今後、学童保育所（放課後児童クラブ）を利用したいですか？



■ 利用している ■ 条件が合えば利用したい □ 利用したい □ 必要がない

（カッコ内は回答者数、「必要がない」は未利用かつ利用意向の無回答者を含む）

学童保育所の利用希望者は、現在利用者の数倍に及ぶ。

学童保育所（放課後児童クラブ）を「利用している」小学生児童・家庭は、1割未満である。それに対し、現在は利用していないが「条件が合えば利用したい」とする児童・家庭は、低学年では3割台である。

3. 親族・地域社会での子育て

(1) 親族関係のなかでの子育て

まとめ

父方の祖父母と同居（敷地内含む）は約3割。母方は1割に満たない。祖父母に「子どもを預かってもらう」のは6割弱、手助けは「特にない」のは2割弱。

学校を休んだ児童は8割。ほとんどは20日未満。

児童が学校を休んだとき面倒をみたのは、母親が8割。しかし、子どもだけで留守番が1割強。

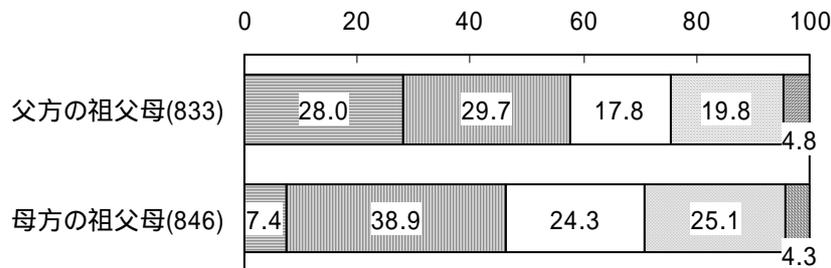
保護者の急な事情で子どもの面倒をみられなかった家庭が約3割。

「保護者」が面倒をみられなかったとき、6割は祖父母が、4割は父親が対応。しかし、「子どもだけで留守番」も3割。

父方・母方の祖父母

問6 お子さんの、父方のおじいさん・おばあさんは、どちらにお住まいですか？

問7 お子さんの、母方のおじいさん・おばあさんは、どちらにお住まいですか？



■同居・敷地内 ■市内 □県内 □県外 ■2人とも死亡

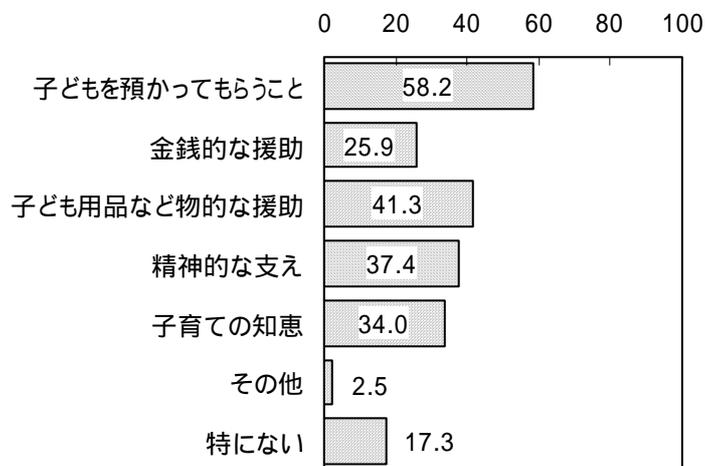
（カッコ内は回答者数）

父方の祖父母と同居（敷地内含む）は約3割。母方は1割に満たない。

小学生児童からみて、父方の祖父母が「同居・敷地内」で一緒に暮らしているのは約3割であり、「市内」も約3割である。同様に母方の祖父母は、「同居・敷地内」が1割未満であり、「市内」は約4割である。その一方で「県外」に祖父母がいるという家庭に着目してみると、父方・母方ともに約2割が「県外」で暮らしている。

祖父母からの手助け

問8 子育てで、お子さんのおじいさん・おばあさんの手助けはありますか？



(回答者数 842 人、複数回答)

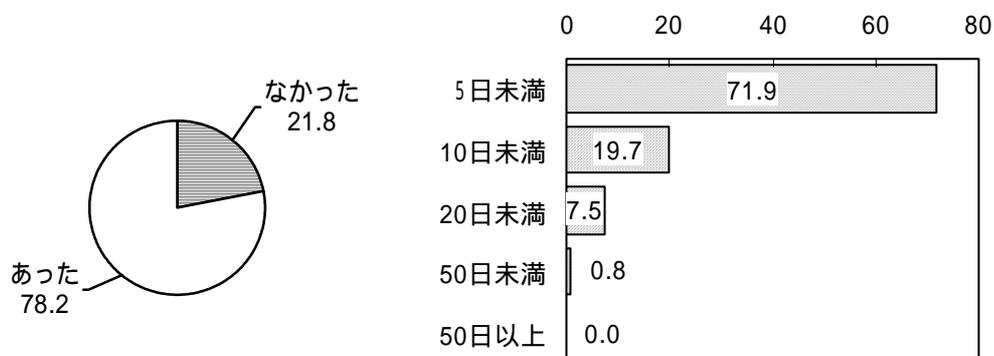
祖父母に「子どもを預かってもらう」のは6割弱、
手助けは「特にない」のは2割弱。

小学生児童のいる家庭・保護者で、祖父母に「子どもを預かってもらうこと」があるのは、約6割である。次いで、金品による援助を得ているのは、「金銭的な援助」の場合は約3割、「子ども用品など物的な援助」は約4割である。さらに、「精神的な支え」を得ているのは3割台である。

一方、祖父母による手助けが「特にない」という児童・家庭も少なくなく、約2割に及んでいる。

子どもが学校を休んだ日数

問18 この1年間で、あて名のお子さんが病気で学校を休んだことはありましたか？



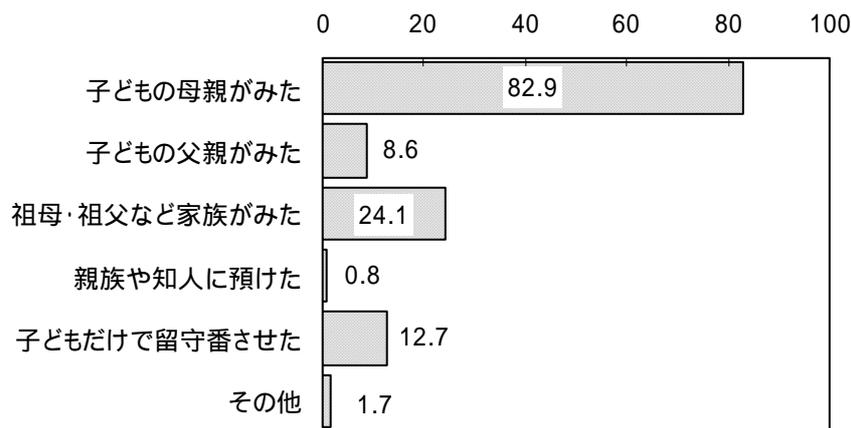
(回答者数 843 人、右図は休んだことのあった回答者 638 人の休んだ日数)

学校を休んだ児童は8割。ほとんどは20日未満。

「1年間で、...病気で学校を休んだこと」が「あった」児童は約8割である。そのうちの約7割は、年間5日未満である。少数ではあるが、年間20日以上、休んだことのある児童も見受けられる。

休んだとき面倒をみた人

問19 お子さんが休んだときは、どなたがお子さんの面倒をみましたか？



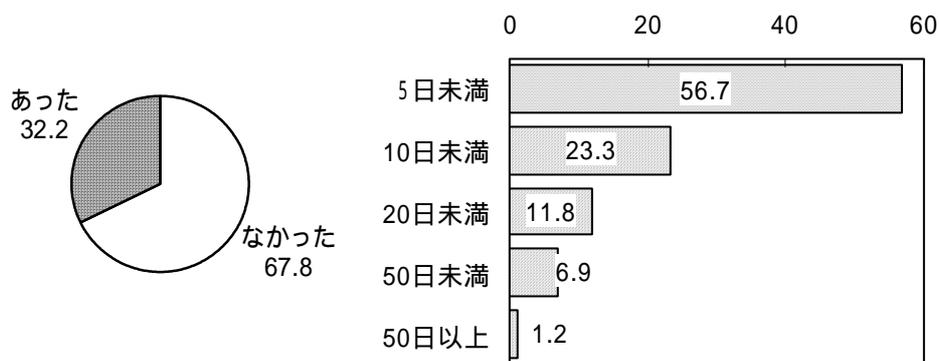
(回答者数 659 人、複数回答、学校を休んだことのある人)

児童が学校を休んだとき面倒をみたのは、母親が8割。しかし、子どもだけで留守番が1割強。

「病気で学校を休んだこと」があった児童・家庭で、そのときに面倒をみた人のうち、約8割までが「子どもの母親がみた」としている。次いで多いのは「祖母・祖父など家族がみた」というものである。一方、「子どもだけで留守番させた」という事例は1割強である。

保護者が面倒をみることができない日数

問20 この1年間に、緊急の用事や保護者の病気や出産で、あて名のお子さんの面倒をみられないことがありましたか？



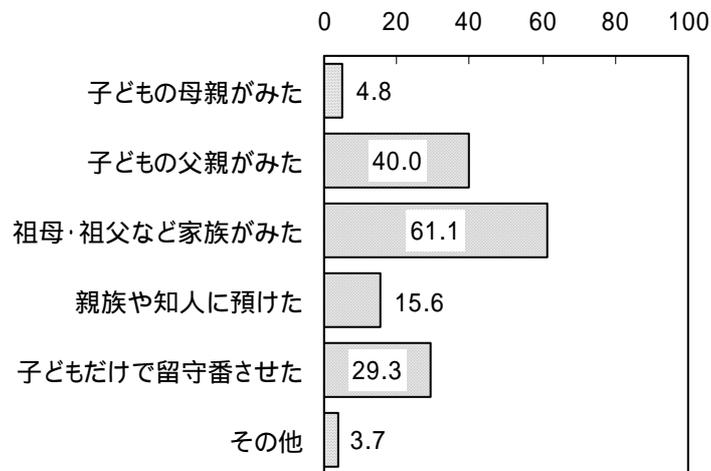
(回答者数 842 人、右図はみられないことのあつた回答者 245 人の日数)

保護者の急な事情で子どもの面倒をみられなかった家庭が約3割。

「1年間に、緊急の用事や保護者の病気や出産で、...お子さんの面倒をみられないこと」が「あった」家庭・保護者は、約7割である。そのうちの約6割は年間5日未満である。一方、ごく少数事例ではあるが、年間50日以上「みられないこと」があった家庭・保護者も見受けられる。

保護者以外の誰が面倒をみるか

問21 その時は、どなたがお子さんの面倒をみましたか？



(回答者数 270 人、複数回答、保護者が面倒をみるできなかったことのある人)

「保護者」が面倒をみられなかったとき、6割は祖父母が、4割は父親が対応。しかし、「子どもだけで留守番」も3割。

「みられないこと」があった家庭・保護者が、その時に面倒をみてもらったのは、約6割が「祖母・祖父など家族」である。「子どもの父親」は約4割である。

一方、「子どもだけで留守番させた」ことがある事例は、少なくとも約3割に及んでいる。

(2)地域社会での子育て

まとめ

市内全域から回答を得た。おおよそ小学生児童の人口比どおりの分布。

小学生のいる家庭の約8割は持ち家（一戸建）で暮らす。

あいさつ程度の近所づきあいの家庭が4割。地区で助け合えるのは約2割。

地区の民生・児童委員等を知らない家庭が6割。

地区が子育てしやすいと感じる家庭は7割以上。しにくいと感じるのは約2割。

子育てしやすさ・しにくさの理由として指摘する人が多い「自然環境がいいから」、「公園や児童館など公共施設がないから」。

住んでいる地区

問 22 お住まいの地区はどちらですか？

富洲原	3.2	三重	6.9
富田	3.7	県	2.8
羽津	4.0	八郷	5.1
常磐	10.3	下野	2.4
日永	5.7	大矢知	6.3
四郷	6.8	河原田	1.2
内部	9.0	水沢	0.7
塩浜	2.7	保々	2.7
小山田	2.3	海蔵	4.9
川島	4.6	橋北	1.3
神前	2.1	中部	5.1
桜	5.6	知らない	0.6

(回答者数 843 人)

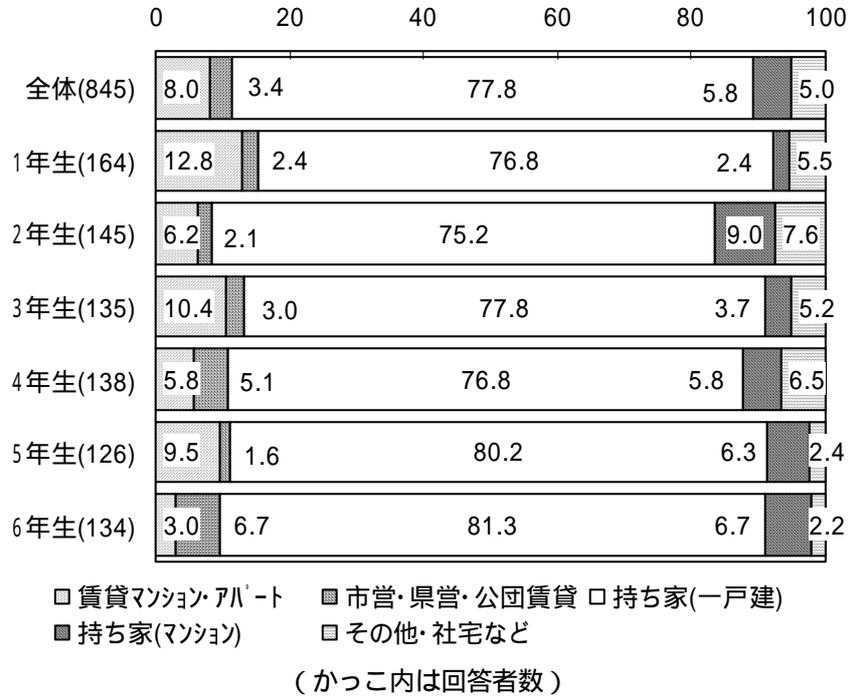
市内全域から回答を得た。おおよそ小学生児童の人口比どおりの分布。

回答は、市内全域から得たものである。おおよそ小学生児童の人口比どおりの分布になっている。

住まいの種類

〔学年別〕

問 23 お住まいは、次のどれに当たりますか？



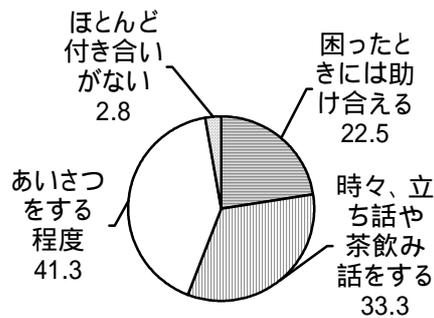
小学生のいる家庭の約8割は持ち家(一戸建)で暮らす。

小学生児童の約8割は「持ち家(一戸建)」の住宅環境で暮らしている。就学前児童の調査結果と合わせると、「持ち家(一戸建)」で暮らす意向のある家庭では、児童が小学校に上がるまでに住み替えをしていることを示唆するものである。

一方、いずれの学年においても、「賃貸マンション・アパート」や「市営・県営・公団賃貸」などの賃貸住宅で暮らす児童・家庭が一定数いる。

近所づきあい

問 24 お宅では、普段近所とのおつきあいをどの程度していますか？



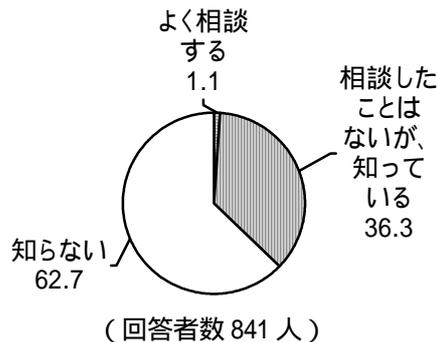
(回答者数 843 人)

あいさつ程度の近所づきあいの家庭が4割。地区で助け合えるのは約2割。

小学生児童をもつ家庭・保護者の近所づきあいの程度は、「困ったときには助け合える」とするのは約2割である。「時々、立ち話や茶飲み話をする」のは約3割であり、「あいさつをする程度」は約4割である。ごく少数事例ではあるが「ほとんど付き合いがない」とする家庭・保護者も見受けられる。

民生・児童委員

問 25 あなたのお住まいの地区の民生・児童委員、主任児童委員をご存知ですか？

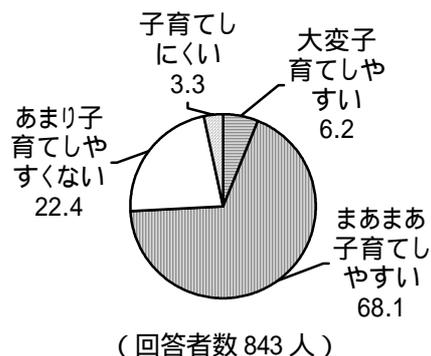


地区の民生・児童委員等を知らない家庭が6割。

地区の民生委員を「知らない」とする家庭・保護者は約6割である。「相談したことはないが、知っている」のは約4割であり、「よく相談する」のはごく少数事例である。

地区の子育てしやすさ

問 26 お住まいの地区は子育てしやすい地域ですか？

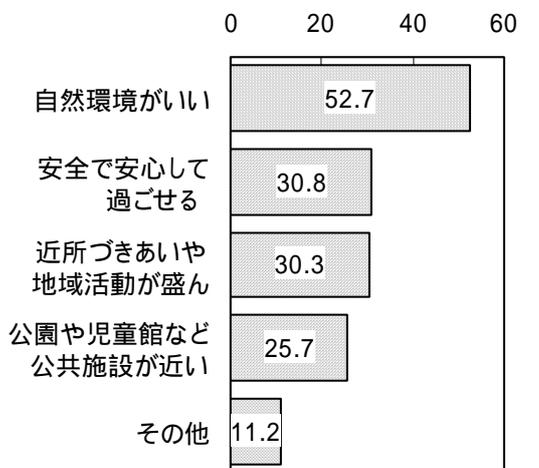


地区が子育てしやすいと感じる家庭は7割以上。しにくいと感じるのは約2割。

住んでいる地区が「大変子育てしやすい」または「まあまあ子育てしやすい」と感じているのは、合わせて7割以上である。一方、「あまり子育てしやすすくない」と指摘するのは約2割であり、「子育てしにくい」とする家庭・保護者は1割未満である。

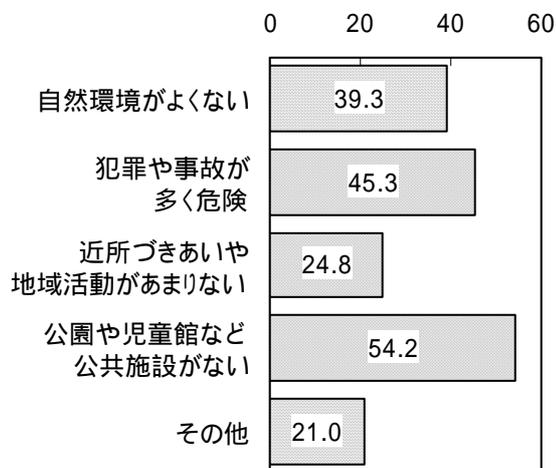
子育てしやすい理由・しにくい理由

問 27 子育てしやすい理由



(問 27 = 回答者数 600 人、複数回答
子育てしやすいと感じている人)

問 28 子育てしにくい理由



(問 28 = 回答者数 214 人、複数回答
子育てしにくいと感じている人)

子育てしやすさ・しにくさの理由として指摘する人が多い
「自然環境がいいから」、「公園や児童館など公共施設がないから」

住んでいる地区が「子育てしやすい」と感じている人のうち約 5 割が、その理由として「自然環境がいい」ことを指摘している。子育てしやすい理由について「その他」の主な記入内容は、「近所に同じくらいの年頃の児童がいる」、「実家・親族が近い」、「生活するのに便利」などが目立つ。

一方、住んでいる地区が「子育てしにくい」と感じている人のうち約 5 割が、その理由として「公園や児童館など公共施設がない」ことを問題として指摘しており、「犯罪や事故が多く危険」という問題を指摘する家庭・保護者は 4 割を超えている。子育てしにくい理由のうち「その他」の主な記入内容は、「地域活動がよくない」、「交通量が多い」、「地域の社会環境がよくない」ことを指摘するものが目立つ。

(3) 親同士の仲間づくり

まとめ

子育ての相談ができる「友人」をもつ人は7割弱。3割弱は、親同士のつきあいが無い。

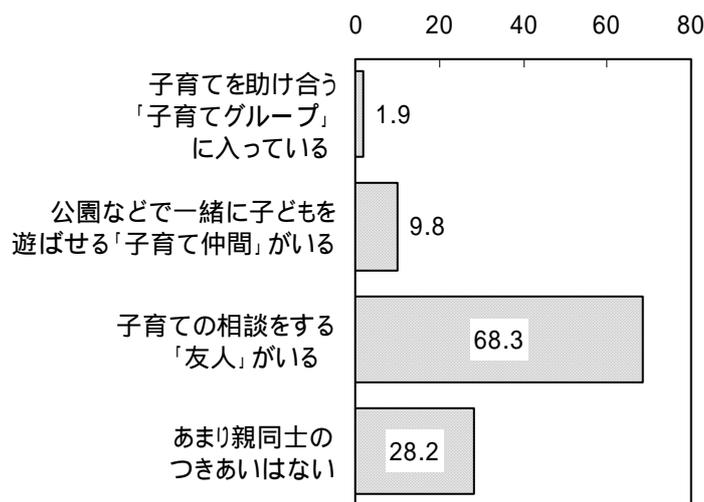
「子育てグループ」は、児童の学年にかかわらず5～6割前後が「条件が合えば」参加したいと考えている。

相談できる相手のいない人は1割弱。

知人等の相談にのることがある約6割。相談も預かることもないのは3割強。

親同士のグループ

問 29 あなたは、子どもの親同士のグループに参加したり、親同士のつきあいをしていますか？



(回答者数 834 人、複数回答)

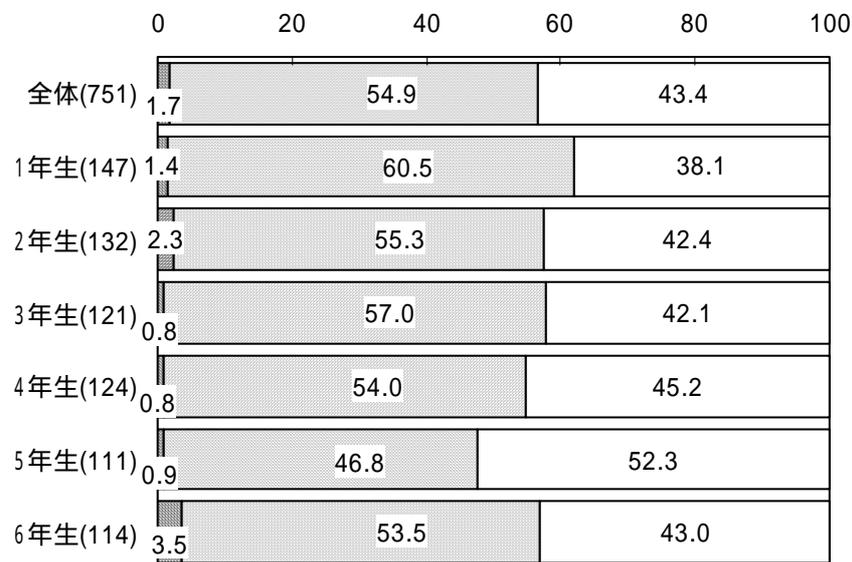
子育ての相談ができる「友人」をもつ人は7割弱。
3割弱は、親同士のつきあいが無い。

「子育ての相談をする『友人』がいる」とする家庭・保護者は約7割であり、「公園などで一緒に子どもを遊ばせる『子育て仲間』がいる」のは約1割である。「子育てを助け合う『子育てグループ』に入っている」とする保護者は、ごく少数事例であり1割に満たない。一方、「あまり親同士のつきあいはない」とする家庭・保護者は少なく、約3割に及んでいる。

グループに参加したいか

〔学年別〕

問 30 「子育てグループ」があれば参加したいですか？



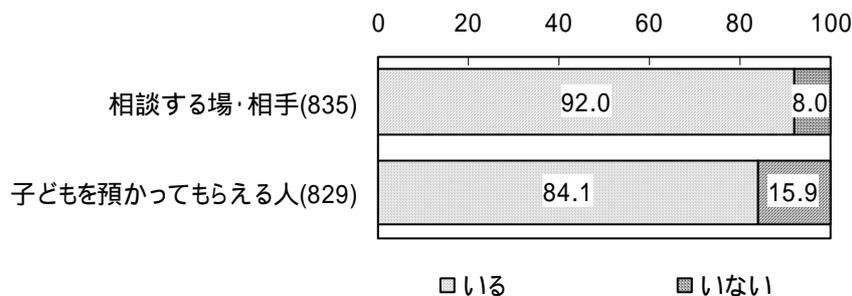
■ 参加したい □ 条件が合えば参加したい □ 参加したくない
 (カッコ内は回答者数、前問で「仲間」「友人」がいる・つきあがない人)

「子育てグループ」は、児童の学年にかかわらず
 5～6割前後が「条件が合えば」参加したいと考えている。

問 29で、「仲間」「友人」がいる、または、つきあがない人について、「子育てグループがあれば」参加したいかを尋ねたところ、児童の学年にかかわらず4～6割台の家庭・保護者は、「条件が合えば参加したい」としている。

相談できる人・預かってもらえる人

問 31 あなたには、育児のことで相談にのってもらったり、子どもを預かってもらえる人はいますか？



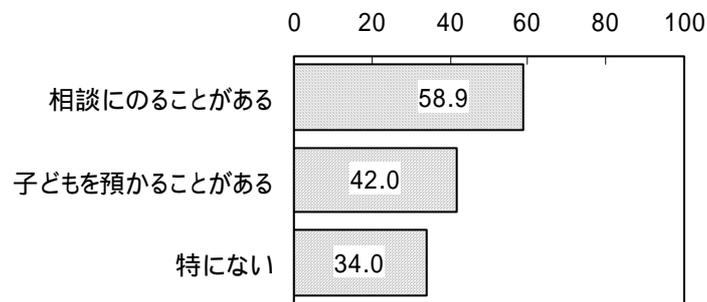
(カッコ内は回答者数)

相談できる相手のいない人は1割弱。

育児の「相談をする場・相手」が「いる」家庭は、回答者のほとんどである。一方、1割に満たないが、そのような人が「いない」とする家庭・保護者も見受けられる。また、「子どもを預かってもらえ人」が「いる」のは約8割であるが、約2割の家庭・保護者では、そのような人が「いない」としている。

知人・親族のため自分が相談にのること・預かること

問 32 あなた自身が、知人や親族の子育ての相談にのったり、子どもを預かることはありますか？



(回答者数 824 人、複数回答)

知人等の相談にのることがある約6割。相談も預かることもないのは3割強。

回答者自身が、知人や親族の子育ての「相談にのることがある」のは、約6割である。また、知人や親族の「子どもを預かることがある」のは、約4割である。

一方、そのような機会が「特にない」との回答は約3割である。

(4)外出時の困りごと

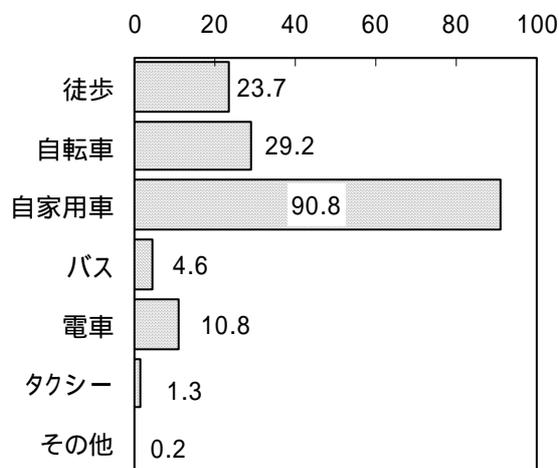
まとめ

子どもとの外出で、自家用車を利用するのは9割。1割前後はバス・電車を利用。

小学生児童の保護者の4割台は、子どもが事故や犯罪にあう危険を心配している。

子どもと出かけるときの交通手段

問 38 普段、子どもと出かける時は、どの交通手段を使いますか？



(回答者数 845 人、複数回答)

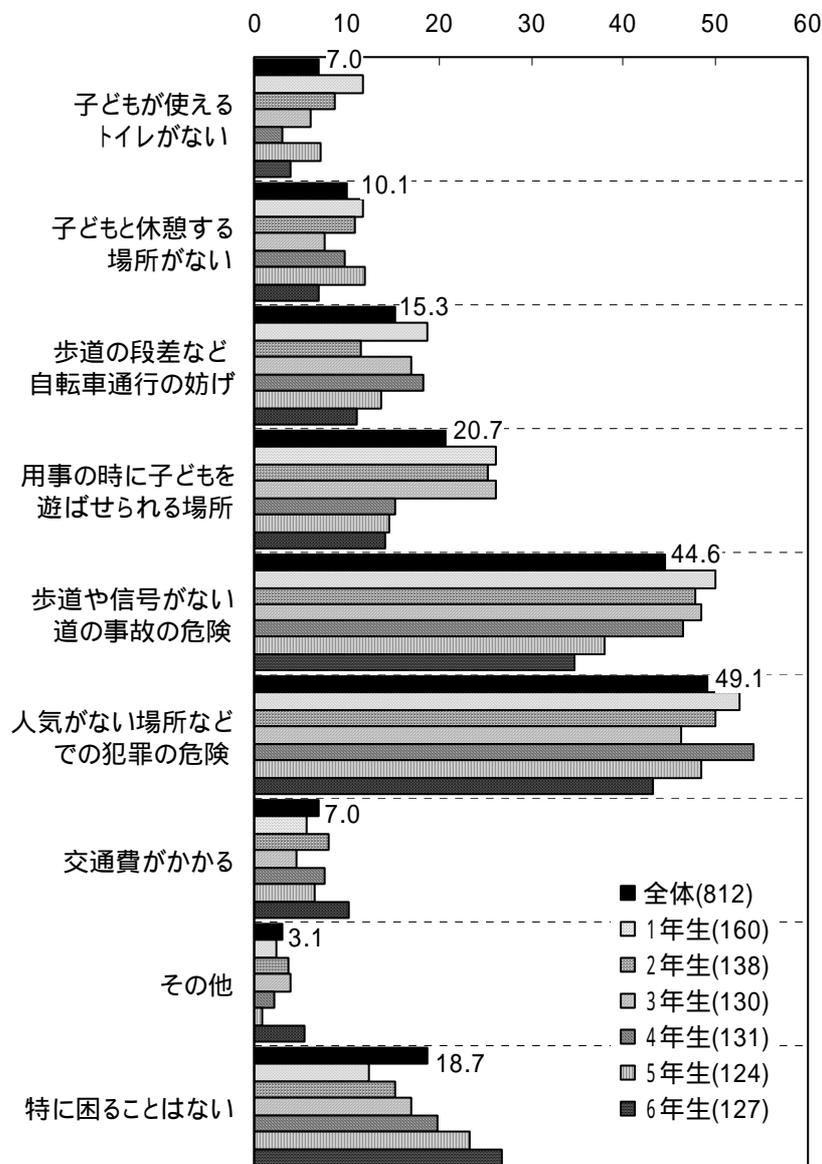
子どもとの外出で、自家用車を利用するのは9割。
1割前後はバス・電車を利用。

「子どもと出かける時」の外出手段は、9割以上が「自家用車」を用いている。また、「バス」や「電車」を使う家庭も少なくない。

出かけるとき困ること

〔学年別〕

問 39 子どもと出かける時や、子どもが外で過ごす時、困ることは何ですか？



(カッコ内は回答者数、複数回答、全体のみ数値を記載、数値を省略した項目は資料編を参照)

小学生児童の保護者の4割台は、子どもが事故や犯罪にあう危険を心配している。

子どもと出かける時や、子どもが外で過ごす時、困ることとして、小学生児童をもつ家庭・保護者が指摘している問題点は、「歩道や信号がない道の事故の危険」や「人気がない場所などでの犯罪の危険」などである。これらは、就学前児童の調査結果では、児童の年齢が高くなるほど問題点として指摘する家庭・保護者が多かったものであり、子どもたちの単独行動を前提とした安全で楽しい街づくりの必要性を示している。

4．父母の就労と子育て意識

(1)子育ての悩み

まとめ

「ゆっくりとした気分」で子どもと向き合えない人も1割未満だがいる。

「何とも言えない」とする人も約3割。

育児に自信を持ってないことがある4割の家庭。「何とも言えない」とする人も3割を超えている。

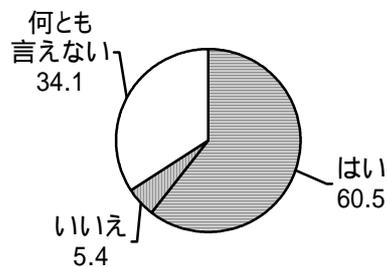
子どもを感情的に怒ることがある約6割の家庭。わずかだが繰り返したたく例も。

虐待していると思うことがないと回答する7割強の家庭。「何とも言えない」とする人は約2割。

子育ての悩みとして指摘する家庭が最も多いのは「子どもの安全」。

ゆっくりとした気分子どもと向き合うこと

問33 あなたは、ゆっくりとした気分でお子さんと向き合うことがありますか？



(回答者数 841 人)

「ゆっくりとした気分」で子どもと向き合えない人も1割未満だがいる。

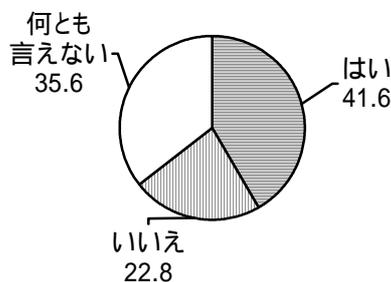
「何とも言えない」とする人も約3割。

「ゆっくりとした気分」で子どもと向き合うことがある(「はい」)とする家庭・保護者は、約6割である。一方で、そのような時間をもてない(「いいえ」)とする家庭・保護者が、1割未満ではあるが、一定数いることが分かる。

また、「何とも言えない」と回答しづらかった家庭・保護者は約3割である。

育児に自信がもてないこと

問 34 あなたは、育児に自信が持てないことがありますか？



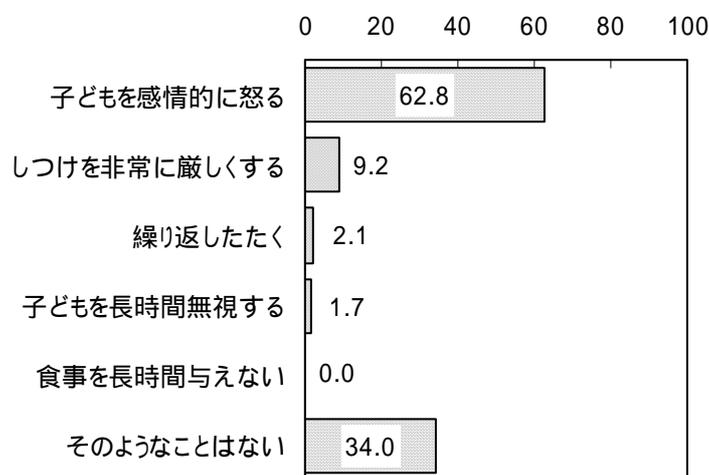
(回答者数 842 人)

育児に自信が持てないことがある 4 割の家庭。
「何とも言えない」とする人も 3 割を超えている。

「育児に自信が持てないこと」がある（「はい」）家庭・保護者は、約 4 割に及んでいる。また、「何とも言えない」と回答しづかった家庭・保護者も 3 割を超えている。

子どもとの接し方

問 35 あなたは、子どもに次のような接し方をすることがありますか？



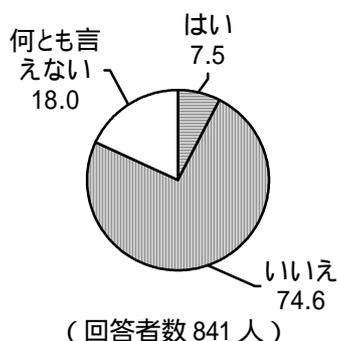
(回答者数 827 人、複数回答)

子どもを感情的に怒ることがある約 6 割の家庭。
わずかだが繰り返したたく例も。

子どもとの接し方について「子どもを感情的に怒る」ことがあるとする家庭・保護者は約 6 割に及んでいる。少数事例ではあるものの、「しつけを非常に厳しくする」「繰り返したたく」「子どもを長時間無視する」「食事を長時間与えない」ことがある家庭・保護者も、見受けられる。

虐待の意識

問 36 自分が、子どもを虐待しているのではないかと思うことがありますか？

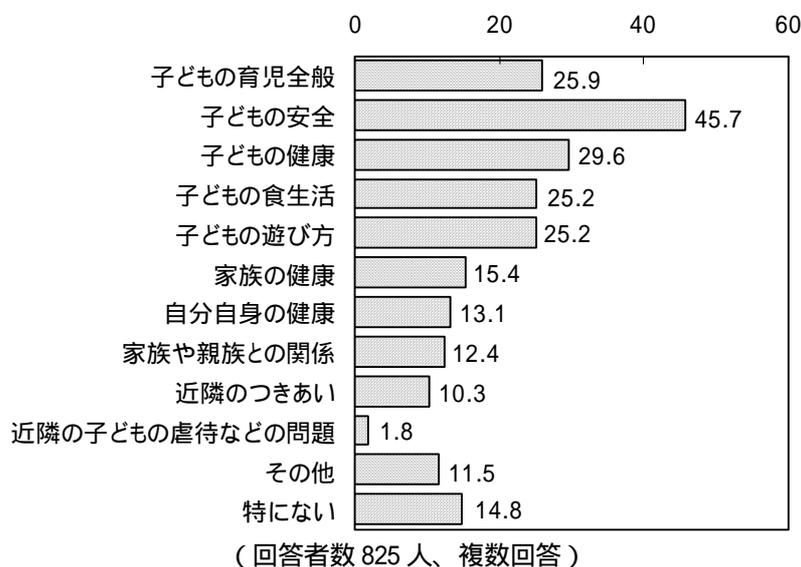


虐待していると思うことがないと回答する 7 割強の家庭。
「何とも言えない」とする人は約 2 割。

「子どもを虐待しているのではないかと思うこと」がない(「いいえ」)とする家庭・保護者は約 7 割である。しかしながら、「何とも言えない」と回答しづらかった家庭・保護者が約 2 割、明確に「はい」と回答したのが約 1 割である。

子育ての悩み・問題

問 37 あなたご自身が、子育てについて感じている悩みや問題はありますか？



子育ての悩みとして指摘する家庭が最も多いのは「子どもの安全」。

「子育てについて感じている悩みや問題」として、多くの家庭・保護者が指摘するのは、子どもの「育児全般」「安全」「健康」「食生活」「遊び方」などである。

就学前児童の調査結果と比較すると、「子どもの安全」に対する不安をもつ家庭・保護者の割合が大きいことが特徴である。

(2) 母親の就労と子育て実態

まとめ

本市出身の母親は4割を超える。就職・結婚後の転入は3割。

低学年児童の母親の3～4割は専業主婦、高学年では2割台。

働く母親の職種で2割を超えるのは、事務職、サービス・販売職、専門職。

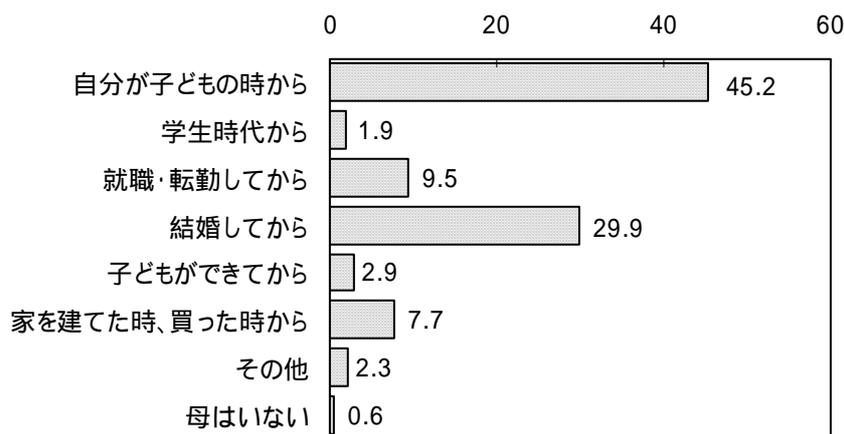
働く母親のうち、子どもの世話のため休み・早退しにくいのは2割強。

母親が子育てをしながら仕事をするためには、夫・勤め先・親族などの理解・協力が必要。

母親が子どもと一緒に過ごす時間は、3～6時間が6割弱。

母親が本市で住まい始めた時期

問 41 お母さんは、四日市市には、いつからお住まいですか？



(回答者数 842 人)

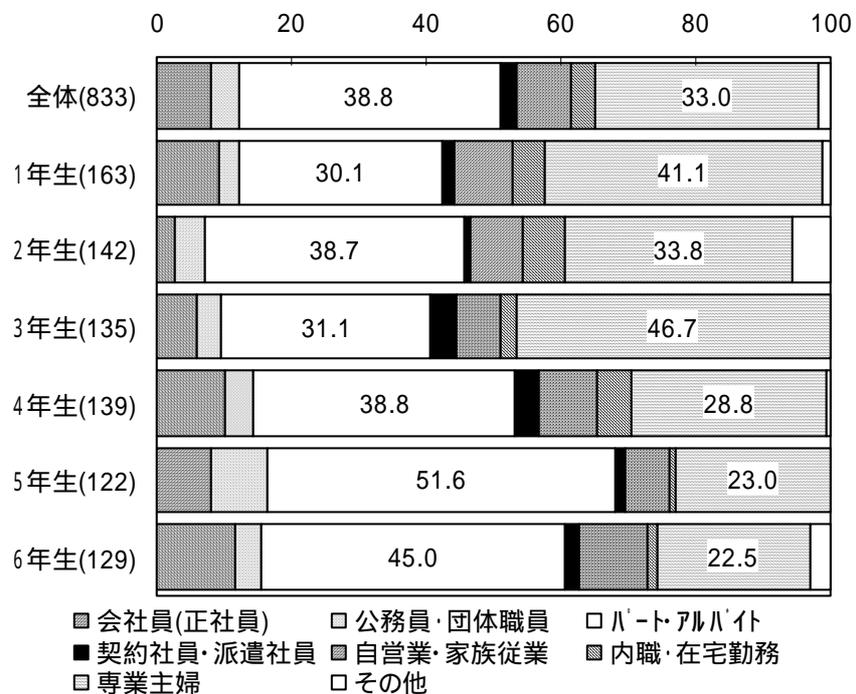
本市出身の母親は4割を超える。就職・結婚後の転入は3割。

小学生児童の母親が、本市で住まい始めた時期は、4割以上が「自分が子どもの時から」としている。一方、「就職・転勤してから」「結婚してから」「子どもができてから」など（市内で子ども時代を過ごさずに）大人になってから本市で住まい始めた人も少なくない。なお、ごく少数事例であるが「母親はいない」家庭もある。

母親の仕事

〔学年別〕

問 42 お母さんのお仕事は何ですか？



(かっこ内は回答者数、母親のいる人、数値を省略した項目は資料編を参照)

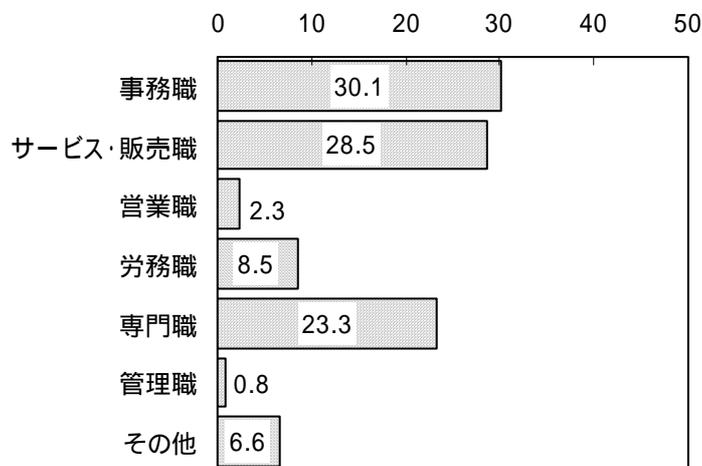
低学年児童の母親の3～4割は専業主婦、高学年では2割台。

小学生児童が低学年である母親の3～4割台、高学年は2割台が「専業主婦」である。一方、児童が1～4年生である母親の3割台、5・6年生では4～5割が「パート・アルバイト」である。

また、いずれの学年においても、「会社員」「公務員・団体職員」や「契約・派遣社員」「内職・在宅勤務」などで仕事をしている母親も、一定数見受けられる。

母親の職業

問 43 職種は何ですか？



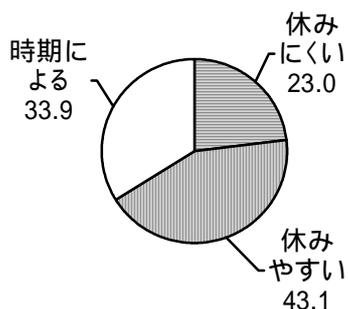
(回答者数 529 人、就労している母親)

働く母親の職種で 2 割を超えるのは、事務職、サービス・販売職、専門職。

仕事をしている母親の約 3 割は「事務職」、3 割弱は「サービス・販売職」に就いており、約 2 割は「専門職」である。少数事例ではあるが、「営業職」や「労務職」に就き仕事をしている母親もいる。

母親が子どもの世話で仕事を休むこと

問 45 子どもの世話のために、仕事を休んだり早退することは難しいですか？



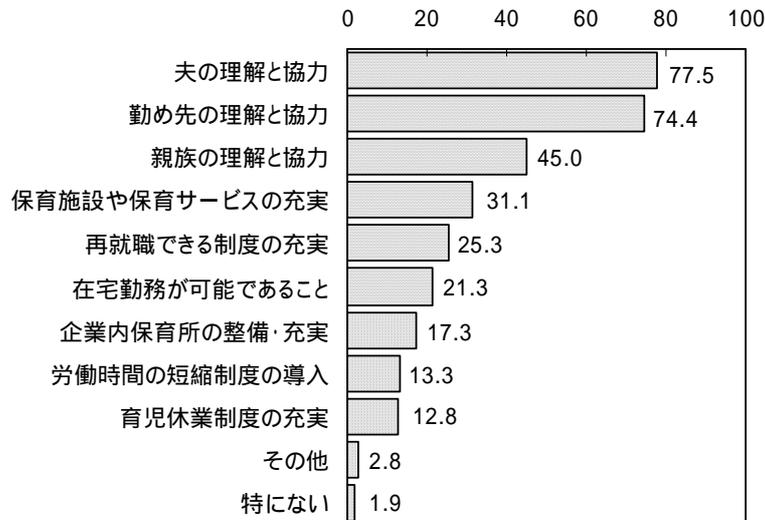
(回答者数 522 人、就労している母親)

働く母親のうち、子どもの世話のため休み・早退しにくいのは 2 割強。

仕事をしている母親に「子どもの世話のために、仕事を休んだり早退すること」について尋ねたところ、「休みやすい」とする母親が約 2 割であり、「休みにくい」とする母親が 4 割を超え、「時期による」とする人も約 3 割いる。

母親が仕事をするため必要なこと

問 46 子育てをしながら仕事をする上で、必要なことは何ですか？



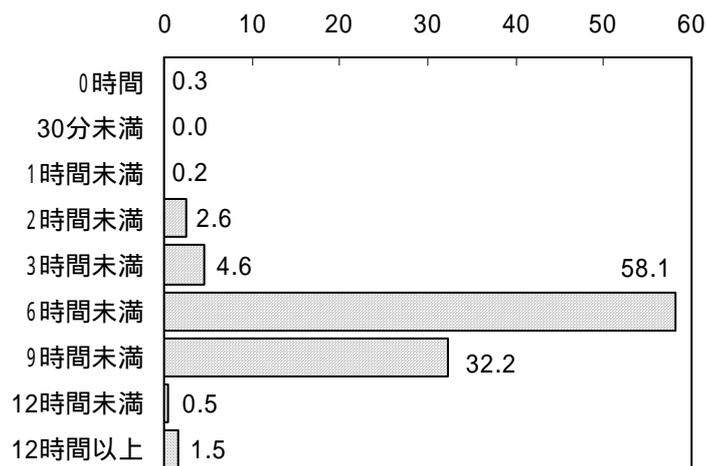
(回答者数 578 人、複数回答、母親のいる人)

母親が子育てをしながら仕事をするためには、
夫・勤め先・親族などの理解・協力が必要。

母親が「子育てをしながら仕事をする」上で必要なこととして、多くの人が指摘するのは、夫・勤め先・親族などの「理解と協力」という点であり、それぞれ4割を超えている。

母親が子どもと過ごす時間

問 47 普段の平日で、お母さんが子どもと過ごす時間は何時間ですか？



(回答者数 587 人、母親のいる人)

母親が子どもと一緒に過ごす時間は、3～6時間が6割弱。

母親が子どもと一緒に過ごす時間は、3時間以上6時間未満が約6割、6時間以上9時間未満が約3割である。就学前児童のある家庭・保護者と比べ、一緒に過ごす時間が6時間を超える家庭・保護者の割合が低くなっている。

(3)父親の就労と子育て実態

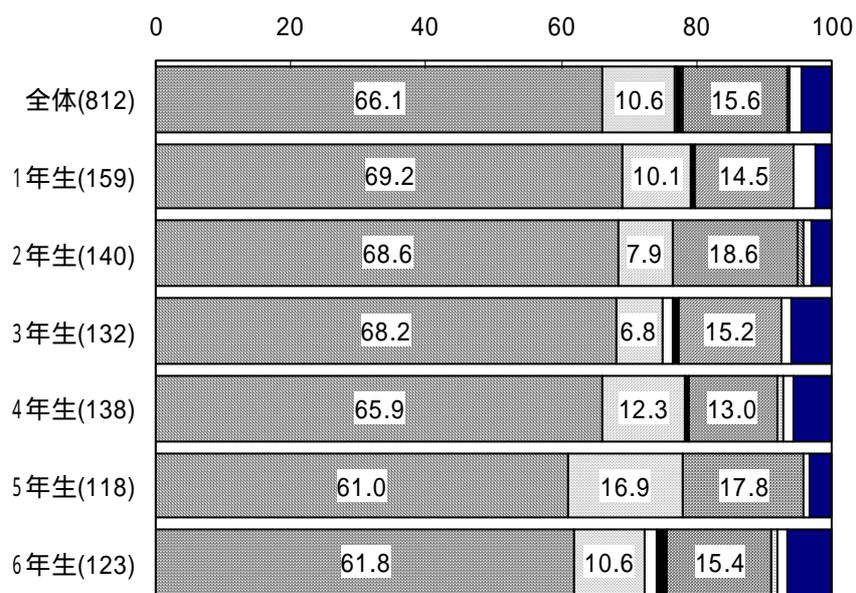
まとめ

父親の仕事は、児童の学年を問わず6割以上が「会社員」。
働いている父親の3割は労務職。多様な職種で働いている。
働く父親の6割弱は、子どもの世話のため仕事を休み・早退しにくい。
父親が子育てをしながら仕事をするためには、家族・勤め先の理解・協力が必要とする人は過半数。
父親が子どもと過ごす時間は、0時間が1割。
1年生の子どもと「よく遊ぶ」父親は4割弱。6年生の3割強は「ほとんど遊ぶことはない」。

父親の仕事

〔学年別〕

問 48 お父さんのお仕事は何ですか？



会社員(正社員) 公務員・団体職員 パート・アルバイト
 契約社員・派遣社員 自営業・家族従業 内職・在宅勤務
 家事専業 その他 父はいない

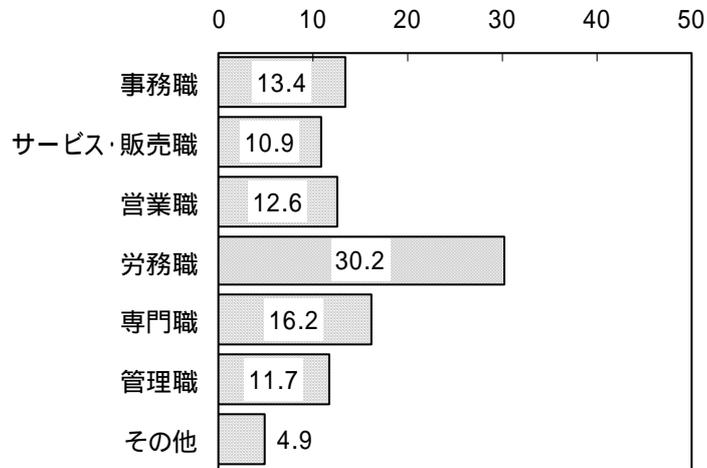
(カッコ内は回答者数、数値を省略した項目は資料編を参照)

父親の仕事は、児童の学年を問わず6割以上が「会社員」。

父親は、母親の就労状態とは異なり、「会社員」として働く人の割合が高く、児童の学年を問わず概ね一定である。母親で多かった「家事専業」「専業主婦」や「パート・アルバイト」は、父親ではごくわずかである。

父親の職業

問 49 働いている方の職種は何ですか？



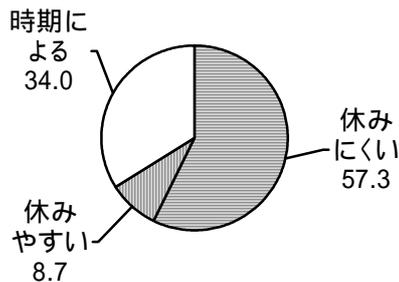
(回答者数 752 人、就労している父親)

働いている父親の3割は労務職。多様な職種で働いている。

仕事をしている父親の約3割は「労務職」に就いている。「事務職」・「専門職」に就いている父親は、1割台である。

父親が子どもの世話で仕事を休むこと

問 51 子どもの世話のために、仕事を休んだり早退することは難しいですか？



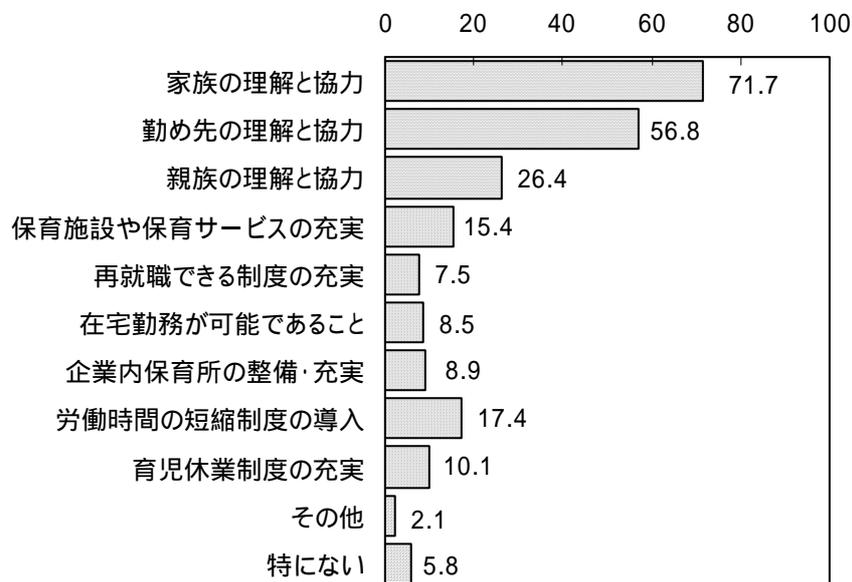
(回答者数 762 人、就労している父親)

働く父親の6割弱は、子どもの世話のため仕事を休み・早退しにくい。

仕事をしている父親に「子どもの世話のために、仕事を休んだり早退すること」について尋ねたところ、「休みやすい」とする父親は1割に満たない。「休みにくい」とする父親は過半数である。

父親が仕事をするため必要なこと

問 52 子育てをしながら仕事をする上で、必要なことは何ですか？



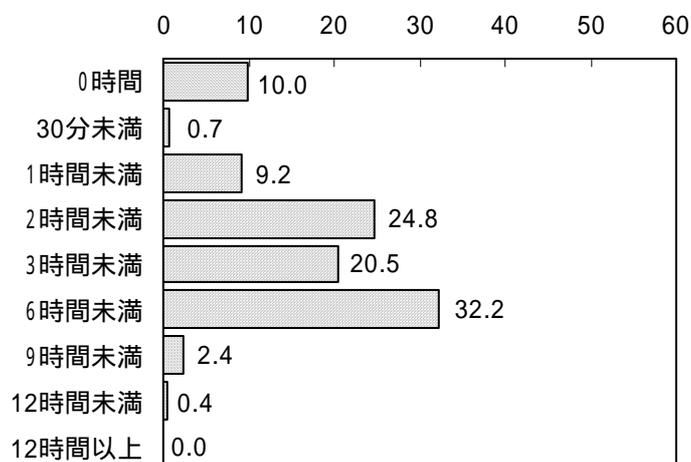
(回答者数 720 人、複数回答、父親のいる人)

父親が子育てをしながら仕事をするためには、
家族・勤め先の理解・協力が必要とする人は過半数。

父親が「子育てをしながら仕事をする」上で必要なことは、家族や勤め先の「理解と協力」を多くの方が指摘しており、また、「再就職できる制度の充実」「在宅勤務が可能であること」「企業内保育所の整備・充実」「労働時間の短縮制度の導入」「育児休業制度の充実」など社会全体での対応も求められている。

父親が子どもと過ごす時間

問 53 普段の平日で、お父さんが子どもと過ごす時間は何時間ですか？



(回答者数 762 人、父親のいる人)

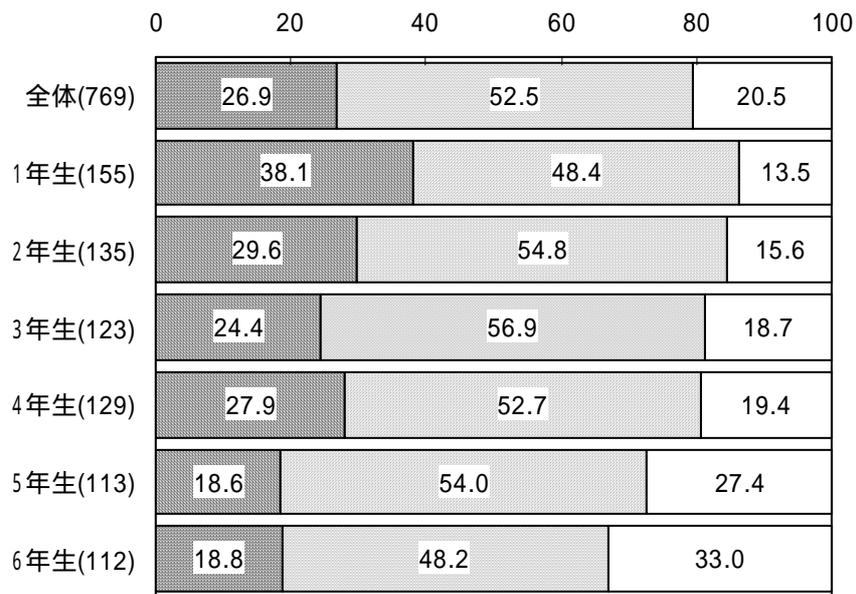
父親が子どもと過ごす時間は、0時間が1割。

父親が子どもと一緒にいる時間は、3時間以上6時間未満が約3割であり、1時間以上2時間未満が約2割、30分以上1時間未満が約1割などである。1日あたり6時間未満という父親がほとんどである。

父親は子どもとよく遊ぶか

〔学年別〕

問 54 お父さんは、お子さんとよく遊んでいますか？



■よく遊んでいる □時々遊んでいる □ほとんど遊ぶことはない

(カッコ内は回答者数、父親のいる人)

1年生の子どもと「よく遊ぶ」父親は4割弱。

6年生の3割強は「ほとんど遊ぶことはない」。

回答者のほとんどは母親であったが、その回答者のうち父親が子どもと「よく遊んでいる」と感じているのは約3割、「時々遊んでいる」とするのは5割である。一方、「ほとんど遊ぶことはない」とする人も少なくない。

また、学年が上がるほど「ほとんど遊ぶことはない」とする家庭の割合が大きくなり、1年生では約1割であるのに対し、5・6年生では約3割である。

(4) 父母の就労時間帯

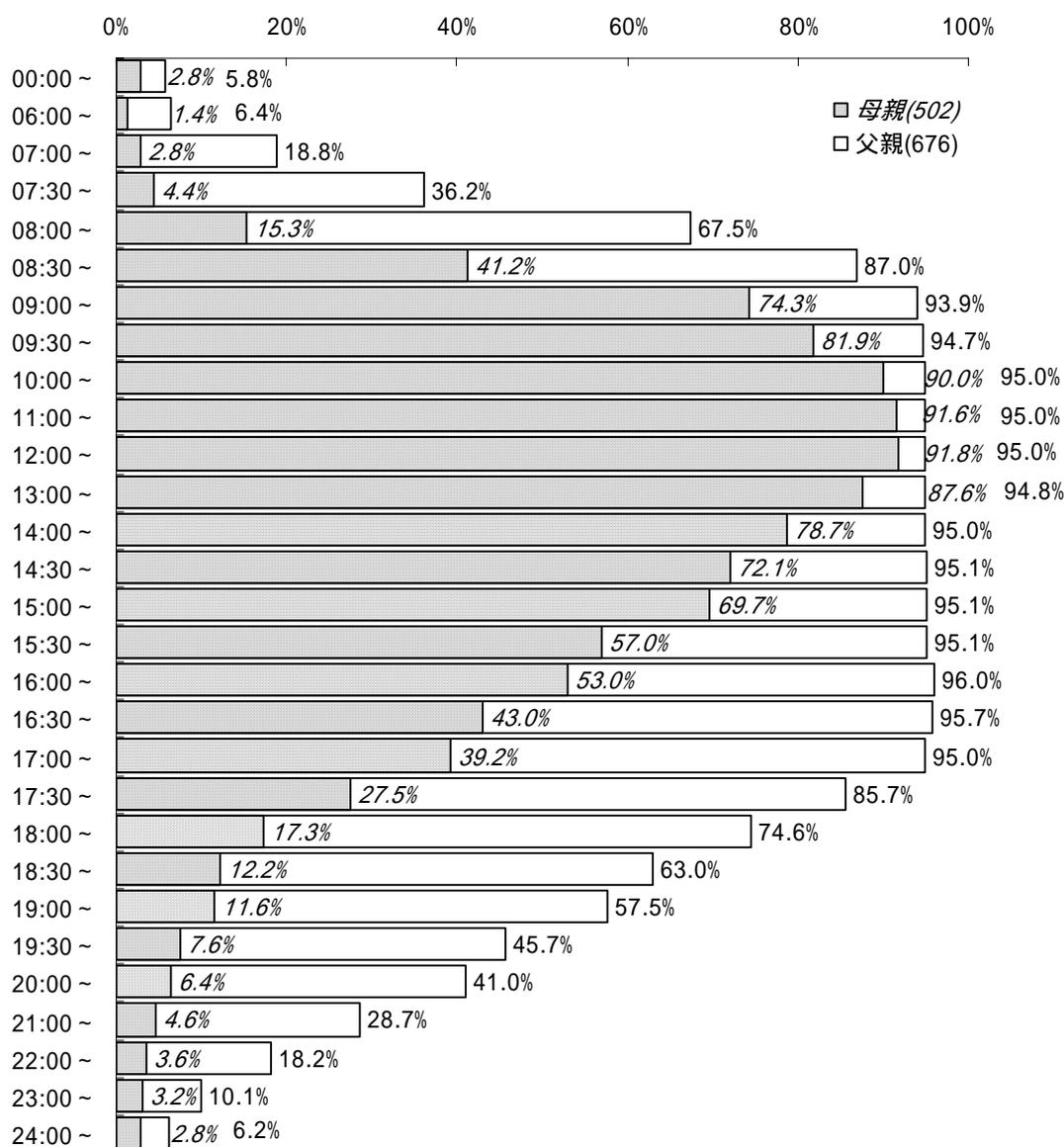
まとめ

母親が仕事をしている時間帯のピークは、10時から14時。

父母の就労時間帯

問 44 就労日数と時間はどのくらいですか？（働いている母親）

問 50 働いている方の就労日数と時間はどのくらいですか？（働いている父親）



（カッコ内は回答者数、就労している母親・就労している父親）

母親が仕事をしている時間帯のピークは、10時から14時。

仕事をしている母親と父親のうち、就労している時間帯別に就労者の割合を整理したものが前図である。(100%は、仕事に従事している母親・父親)

仕事をしている父親の9割以上は、9時から17時までの時間帯に就労している。それに対し、仕事をしている母親の9割以上が就労しているのは、10時から13時台である。

また、7～8時台と16～21時台は、就労している父母の間での割合の開きが大きい。なお、24時以降や6時以前にも就労している母親・父親があることが分かる。

5. 学童保育所への希望

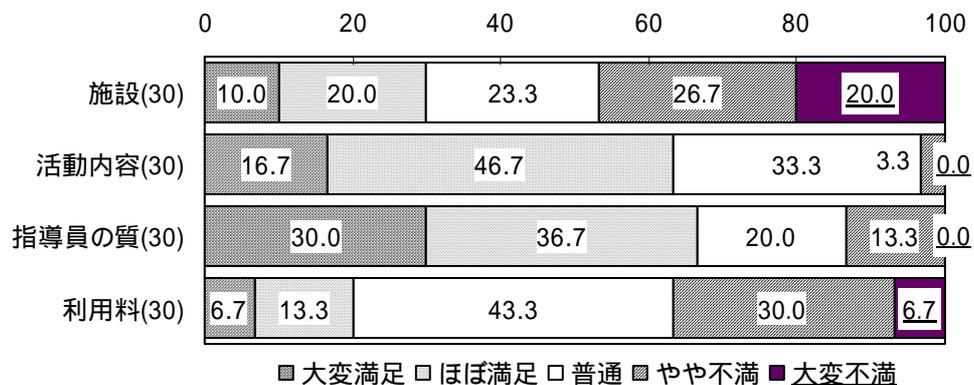
(1) 利用先の現状への評価

まとめ

「活動内容」「指導員の質」には満足だが、「施設」「利用料」に不満な人もいる。

学童保育所への評価

問 15 通っている学童保育所（放課後児童クラブ）について、どのようにお感じですか？



(カッコ内は回答者数、放課後児童クラブの利用者)

「活動内容」「指導員の質」には満足だが、
「施設」「利用料」に不満な人もいる。

問 11 で学童保育所（放課後児童クラブ）を利用しているとした児童・保護者 30 人について、利用している学童保育所を利用した感想を尋ねた。「活動内容」や「指導員の質」という観点では「大変満足」「ほぼ満足」とする人が半数を超えているのに対し、「施設」や「利用料」という観点では、「やや不満」「大変不満」とする人が若干目立つ。

(2) 今後の希望

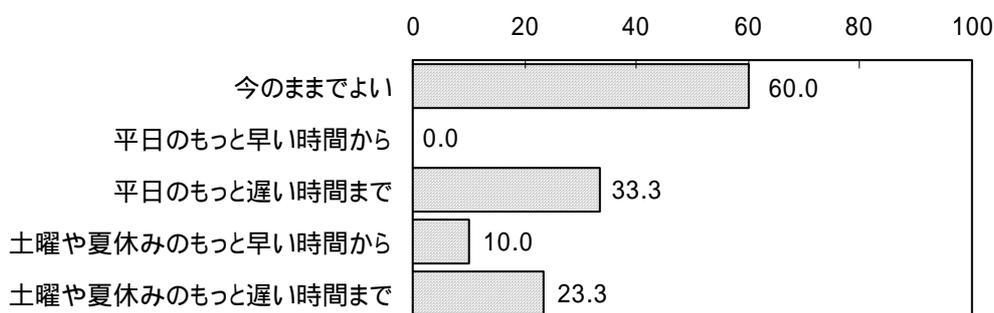
まとめ

夕方の延長希望が少なくない。

日曜・祝日も預かって欲しいとする保護者が見受けられる。

延長の希望

問 16 利用時間の延長希望は、ありますか？



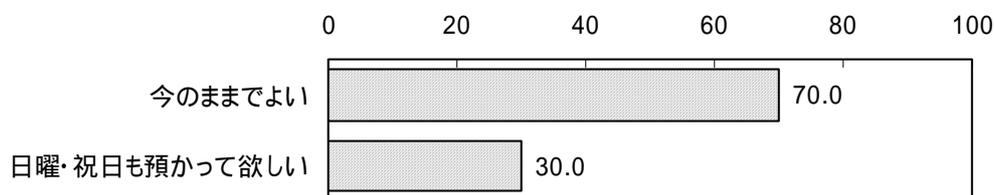
(回答者数 30 人、複数回答、放課後児童クラブの利用者)

夕方の延長希望が少なくない。

利用している学童保育所について、「もっと遅い時間まで」延長してほしいと考えている児童・保護者は、平日だけでなく、土曜や夏休みについても見受けられる。なお、利用時間帯は「今のままでよい」とする人は、6割である。

日・祝日の希望

問 17 日曜や祝日の利用希望は、ありますか？



(回答者数 30 人、放課後児童クラブの利用者)

日曜・祝日も預かって欲しいとする保護者が見受けられる。

利用している学童保育所について、「日曜・祝日も預かって欲しい」とする児童・保護者が見受けられる。なお、「今のままでよい」とする人は、7割である。

6 . 支援施策の利用と希望

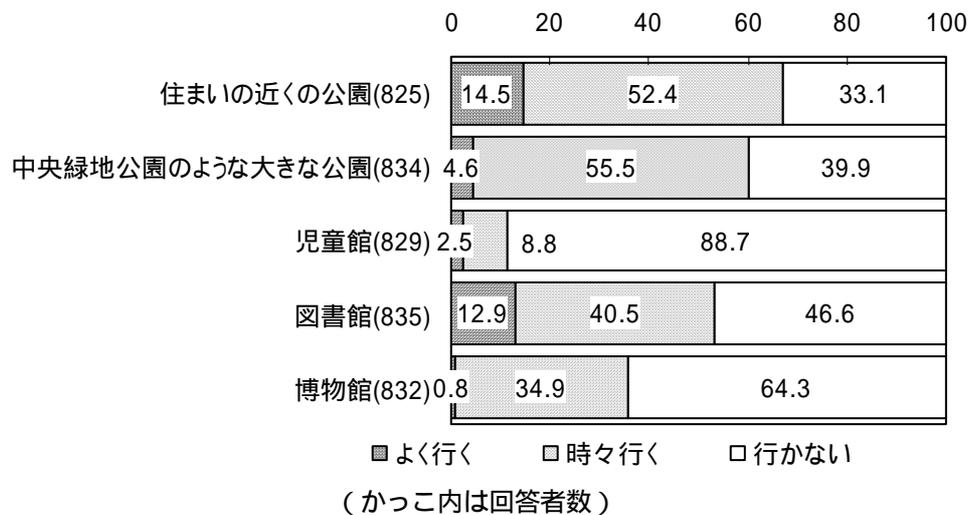
(1)施設・会の利用と希望

まとめ
 図書館に「よく行く」のは1割超。児童館に行かないのは9割弱。
 「大きな公園」「図書館」に満足は約2割、「近くの公園」「児童館」に不満は約3割。
 不満な理由の第1は「遠い」こと。「近くの公園」は「安全でない」ことも問題。

施設・会の利用

問40 四日市市には、子どものための次のような施設や会がありますが、利用していらっしゃいますか？

(1)利用の有無



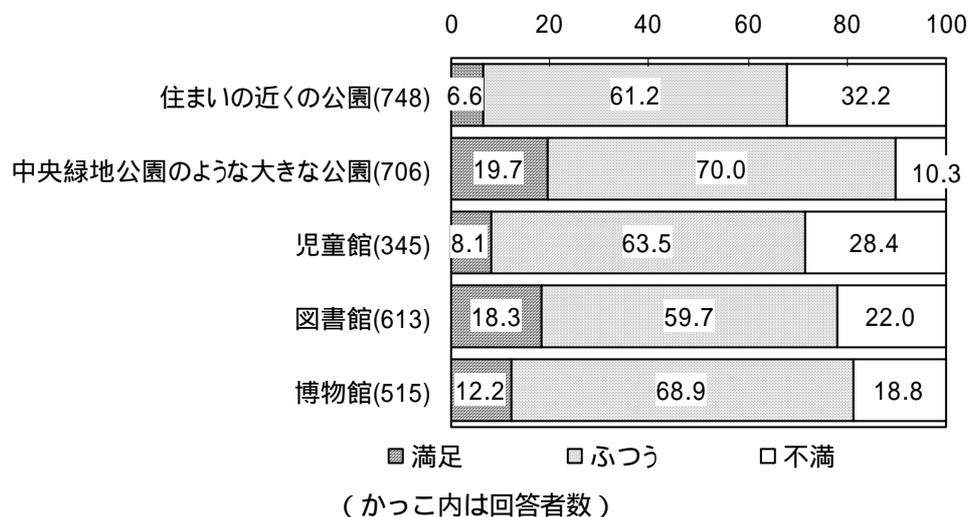
図書館に「よく行く」のは1割超。児童館に行かないのは9割弱。

市の「施設や会」について、利用経験を尋ねた。「住まいの近くの公園」や「中央緑地公園のような大きな公園」は、「時々行く」とする家庭が5割台である。また、「図書館」「博物館」は、「時々行く」児童・家庭は3～4割台である。一方、「児童館」は、「よく行く」「時々行く」を合わせても1割に満たない。

施設・会への評価

問 40 四日市市には、子どものための次のような施設や会がありますが、
利用していらっしゃいますか？

(2)施設はどうお感じですか？



「大きな公園」「図書館」に満足は約2割、
「近くの公園」「児童館」に不満は約3割。

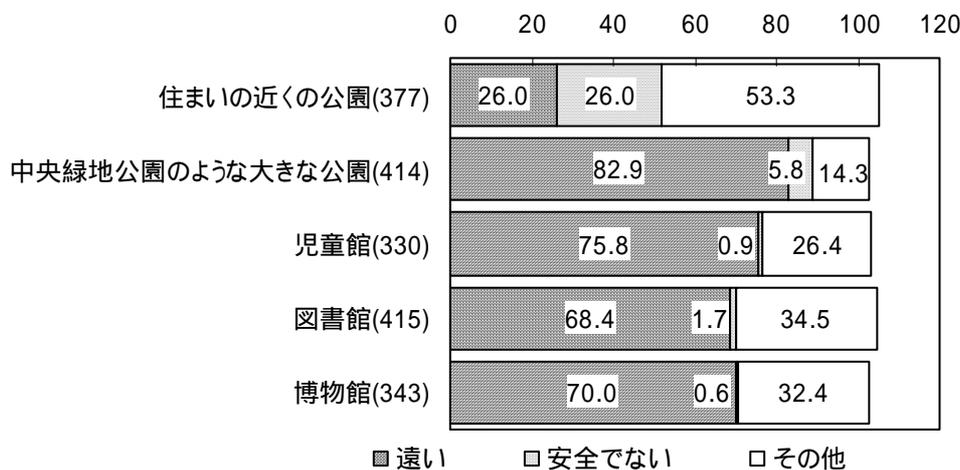
市の「施設や会」について、どのように感じているかを尋ねた。「住まいの近くの公園」や「児童館」「図書館」は「不満」とする保護者が2割を超えている。

一方、「中央緑地公園のような大きな公園」「図書館」について「満足」とする児童・保護者は2割近くに及んでいる。

施設・会の不満点

問 40 四日市市には、子どものための次のような施設や会がありますが、
利用していらっしゃいますか？

(3)不満な点があれば、ご記入ください。



(カッコ内は回答者数、複数回答)

不満な理由の第1は「遠い」こと。
「近くの公園」は「安全でない」ことも問題。

市の「施設や会」の不満な点を尋ねた。いずれの施設についても「遠い」ことが問題となっているなかで、「近くの公園」については「安全でない」と感じている児童・保護者が相対的に目立っている。

なお、不満な点について「その他」の主な記入内容は、次のとおりである。

「住まいの近くの公園」

・清潔でない、遊具が少ない、トイレが(少)ない など

「中央緑地公園のような大きな公園」

・トイレが少ない、駐車場が少ない など

「児童館」

・知らない など

「図書館」

・駐車場が少ない、本が少ない など

「博物館」

・駐車場が少なく、内容的に合わない など

(2)子育て支援の利用と希望

まとめ

知っている人が7割以上の子育て支援は「あそぼう会・あそび会」「保健センター」。

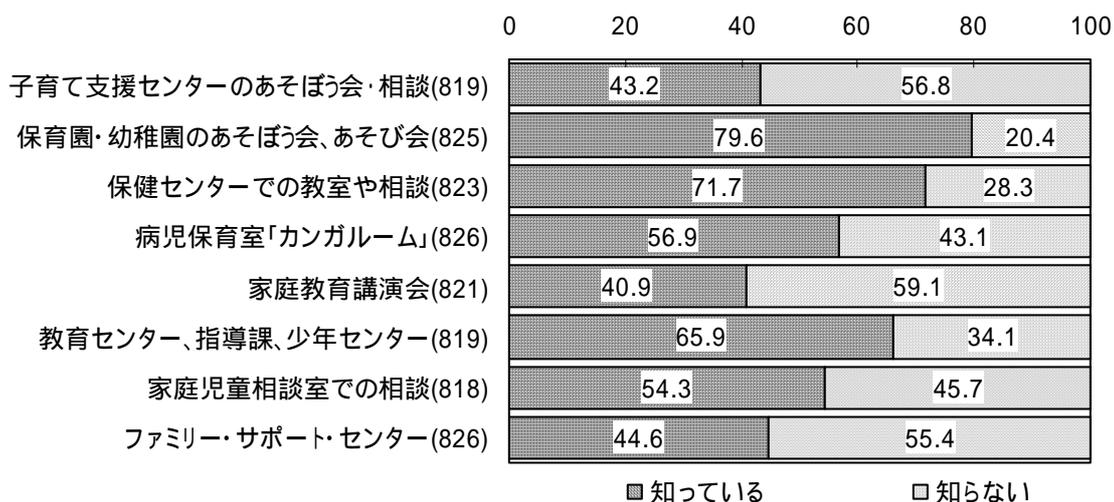
利用経験が多いのは「保育園・幼稚園のあそぼう会、あそび会」の4割強。次いで「保健センター」の2割。

利用希望をもつ家庭が3割に及ぶ「家庭教育講演会」。

子育て支援の知識

問 55 四日市市では、次のような子育て支援を行っています。これらの支援をご存じですか？
また利用されたことはありますか？

(1)この支援をご存じですか？



(カッコ内は回答者数)

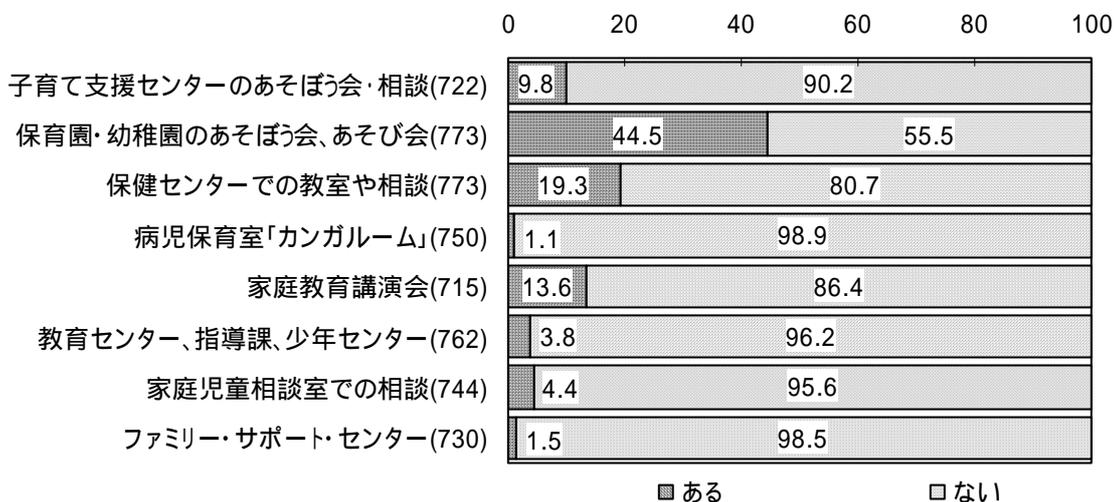
知っている人が7割以上の子育て支援は
「あそぼう会・あそび会」「保健センター」。

市の「子育て支援」についての周知度を尋ねたところ、知っている人が半数を超えている事業として、多い順に「保育園・幼稚園のあそぼう会・あそび会」「保健センターでの教室や相談」のほか、「教育センター、指導課、少年センター」や「病児保育室「カンガルーム」」「家庭児童相談室での相談」などを挙げる事ができる。

子育て支援の利用経験

問 55 四日市市では、次のような子育て支援を行っています。これらの支援をご存じですか？
また利用されたことはありますか？

(2)利用したことはありますか？



(カッコ内は回答者数)

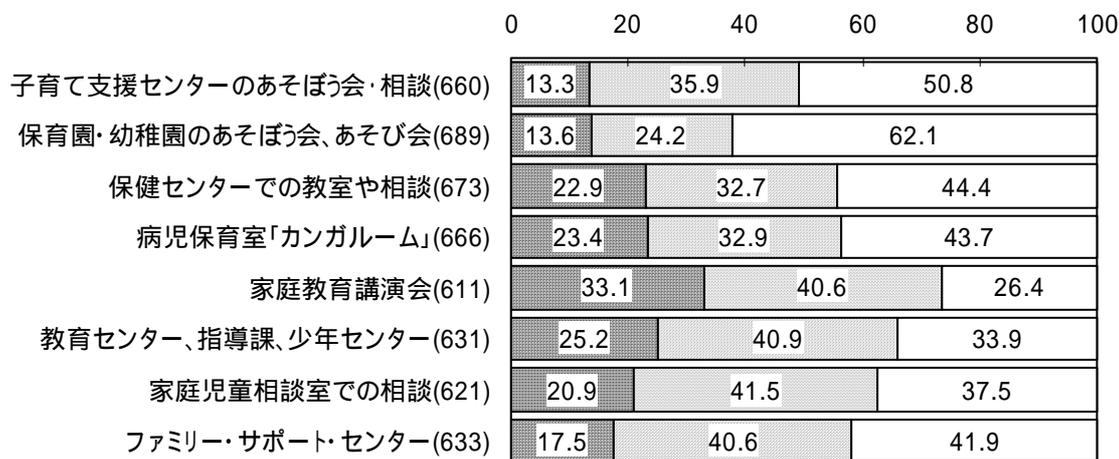
利用経験が多いのは「保育園・幼稚園のあそぼう会、あそび会」の4割強。
次いで「保健センター」の2割。

市の「子育て支援」についての利用経験を尋ねたところ、利用したことがある人が多い事業は、「保育園・幼稚園のあそぼう会・あそび会」であり、約4割の児童・家庭が活用している。次いで、利用経験のある人が多い事業は「保健センターでの教室や相談」などであり、約2割の児童・家庭が活用している。

子育て支援の希望

問 55 四日市市では、次のような子育て支援を行っています。これらの支援をご存じですか？
また利用されたことはありますか？

(3) 今後、利用したいですか？



■ 利用したい □ するつもりはない □ 必要ない

(カッコ内は回答者数)

利用希望をもつ家庭が3割に及ぶ「家庭教育講演会」

市の「子育て支援」について今後の利用希望を尋ねたところ、いずれの事業についても、1～3割台の児童・家庭が利用したいとしている。利用意向の割合が最も高いのは、「家庭教育講演会」であり3割を超えている。

(3)子育て支援施策への意見・要望

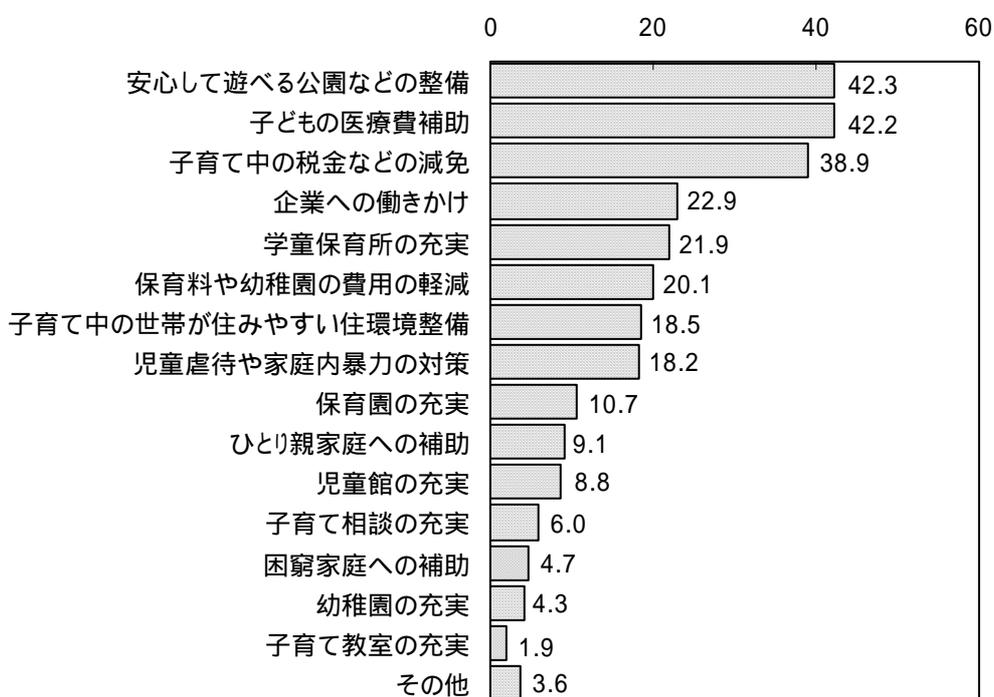
まとめ

公園などの整備、医療費補助、税金などの減免など、多方面の子育て支援策の充実が必要。

約4割は、負担増を伴ってでも施策の充実を希望。

本市の子育て支援への要望

問56 今後、本市はどのような子育て支援に力を入れるべきでしょうか？



(回答者数 822 人、複数回答 3 つまで)

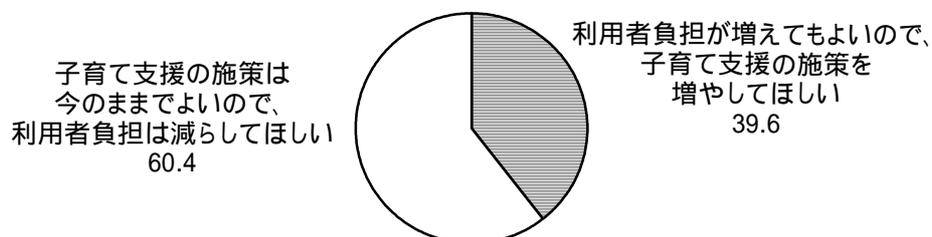
公園などの整備、医療費補助、税金などの減免など、
多方面の子育て支援策の充実が必要。

本市が力を入れるべき子育て支援施策として、多くの保護者が考えている施策は、「安心して遊べる公園などの整備」や「子どもの医療費補助」「子育て中の税金などの減免」などの経済的な支援策であり、それぞれ約4割である。また、「学童保育所の充実」や「児童館の充実」を求める保護者は、それぞれ約2割、約1割となっている。

なお、就学前児童の調査結果と選択肢が異なるため正しく比較できないが、要望する保護者の割合が5%以上多くなっている施策としては、「児童虐待や家庭内暴力の対策」や「ひとり親家庭への補助」を例示することができる。

子育て支援施策のあり方

問 57 今後、子育て支援をすすめるにあたって、あなたのお考えに近いものをしてください。



(回答者数 713 人)

約 4 割は、負担増を伴ってでも施策の充実を希望。

子育て支援施策の推進にあたっての負担の問題について尋ねた。保護者の約 4 割は、「利用者負担が増えてもよいので、子育て支援の施策を増やしてほしい」という意見をもっている。しかし、「子育て支援の施策は今のままでよいので、利用者負担は減らしてほしい」とする意見をもつ保護者は過半数に及んでいる。